

1984年 2月 8日

ミセス ジーン バンキエ
1 2 2 東 6 1 街
ニューヨーク、ニューヨーク

親愛なるミセス バンキエ

島野栄道老師より、1984年1月28日付けの書状が私のもとへ送られてきました。1983年1月2日付け、理事会宛の書状と、1984年1月21日付けのシルヴァン ブッシュから栄道老師とやすこ宛の書状の複写も同封されており、これらは私の意見を必要とします。書状には私の意向なるものが書かれているのですが、これが全面的に正確ではないからです。

史実によれば、私はおよそ3百5千万ドルを禅教団へ贈与しました。彼らの目的を援助したかったからです。私が考えていたことの一部として、これは私の希望ですが、356東69街の不動産は売却すべきものではなく、栄道老師と彼の妻の住居として保持すべきものでした。此の事は当時はっきり申し渡した筈です。現在私が理解した範囲では、この不動産は売りに出され、老師は通りに面したアパートを16万ドルで購入したとの事。彼は禅教団に対し356東69街の不動産が販売された後16万ドルを返済するよう要求しているようですが、もとよりこの不動産は禅教団の所有物であって、栄道老師のものではありません。

私は老師へ16万ドルの贈り物をしたつもりは全くありません。もし、356東69街の不動産が売れたら（これは私の希望に反し、贈与の最初の目的ではない）この収益は私の贈り物に対する原案に従って処理すること、つまり、私、チェスター アンド ドリス カールソン慈善財団へ返済すべきです。この収益の一部たりとも、老師へ与える事は私の原案に反し、事実上此の結果、当初行われた贈与の立場も危うくするかもしれません。

単にここで私がはっきりさせたいことは、356東69街の不動産の販売は認めないのですが、もし、販売が終了してしまったならば、販売による収益は私、即ちチェスター アンド ドリス カールソン慈善財団へ返済すること、私はこれを財団へ納めます。販売による収益は、その一部たりとも老師のアパート購入のための資金として与えてはいけません。もし彼がどうしてもアパート購入を選ぶならば、彼は彼個人の資金で購入すればよいのであって、私個人の基金、又は356東69街の不動産販売による収益をこれにあてればよい等という、私からの示唆は全くなかったものと了解してください。

禅教団には老師の妻に贈り物をせねばならない、いかなる義務もありません。一方、老師には妻を扶養せねばならない彼自身の義務がありますが、生命保険を買うなど世の夫達が妻の為にしていることを行う事もできます。当然の事ながら、長い年月に渡り老師の収益は妻の収益として分配されて来たはずであり、この家の販売で別々に彼女への準備をせねばならない理由はないと思います。356東69街の家を買ったのは、老師の妻が禅堂に住む事を望まないであろうとの思いやりからで、彼らは長い間非常に良い家を与えられてきたのです。

もう一つ、私個人の観察を述べますと、多くの理事会の主要人物が、過去2～3年に渡り次々に辞職している事で、私のもとへ入ってくる情報によれば禅教団の内部とこれを取り巻く雰囲気、禅の教義と矛盾しているとのこと、多分この私の声明は前に述べた事を反復することによってさらに明瞭になり、大切な事でもあるので後学のために繰り返し替えますと、1974年10月21日の手紙で私は“栄道老師の靈的崇高さに報いるという唯一の理由で私は惜しまずニューヨーク禅教団へ基金を与えます。彼の為でなかったら私はいささかの関心もないのです。”と述べました。実のところ、今ではあの時のような自信はなく、この変化の原因はといえば、信頼できる筋よりの報告によれば、栄道老師の長年にわたる不品行のため禅教団の靈的崇高さはすっかり失われてしまったからです。

ここで私の立場を要約しますと

1. 私は356東69街の不動産は売るべきではないと思うのですが、やむを得ない事情でそうせねばならないならば、販売による収益は、私 - チェスター アンド ドリス カールソン慈善財団に返還すること、私はこれを財団に納めます。
2. 栄道老師が不動産を16万ドルで購入する事は自由であるが、この支払いの一部たりとも、免税組織である禅教団が支払うべきではないこと、これは彼の個人投資として扱うべきで禅教団には何の関わりもないことで、私は絶対に356東69街不動産の販売収益をこれに当てる事は認めません。
3. 最後に、もはや、私がかって栄道老師に対して抱いた、信頼も感動ありません。 禅教団を去った人々より私のもとに送られてきた書状の他、最近の1983年12月21日、1984年1月21日、1984年1月28日の手紙を再検討、私の当初の目的、1974年10月21日の手紙の大要を参照すれば私の立場も全面的に再評価せねばならないものとなりました。

この手紙を書くことは私にとって非常に困難な事でしたが、おわかりのようにこれ以上延ばし続けることが出来ないことがらです。 どなたも、書状以外には私宛に連絡を下さらないよう願います。 当然の事ながら、理事長のシルヴァン ブッシュよりの書状を期待しています。

真実にあなたの

ミセス チェスター F カールソン